

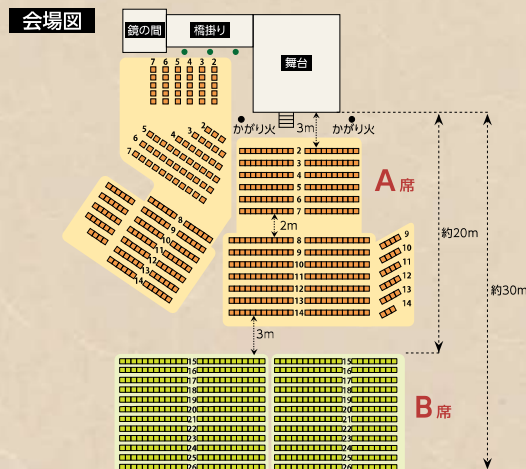
えびな新能

岡文化スポーツ課(235)4797

史跡相模国分寺跡を会場に、えびな新能を開催します。杜若・かきつばた・を観世流能楽師・九世観世鏡之丞、蝸牛・かぎゅう・を和泉流狂言師・野村萬斎が演じます。上演前に解説がありますので、初めての方でも安心して鑑賞できます。ぜひ皆さんでお楽しみください。



▼日時 9月26日(土)18時30分開演(17時30分開場・21時終演予定)
▼会場 史跡相模国分寺跡(雨天時は文化会館大ホール)
▼チケット料金 A席(地上席)6000円・B席(スタンド席)4000円
▼チケット販売日時・場所
◇7月19日(日)10時~16時・市役所1階エントランスホール ※9時から購入引換券を配布
A席・B席に分けて販売します。
◇7月21日(火)以降8時30分~17時15分・文化スポーツ課窓口
▼その他 座席は全席指定制。チケットは海老名市民優先販売のため、市外在住の方は7月27日(月)以降、残席があった場合のみ購入可能となります。なお、チケット購入に「えびな元氣商品券」は使用できませんのでご了承ください。



観世流 能

杜若・かきつばた・

旅僧が三河国に着き、沢辺に咲き乱れる杜若に見とれていると一人の女性が現れ、ここは八幡という古歌にも詠まれた杜若の名所であり、在原業平が「かきつばた」の五文字を句頭に置いた「唐衣、着つて馴れにし 妻しあれば 還々来ぬる 旅をしぞ思ふ」という和歌を詠んだことを語ります。女性は杜若の精で、業平は歌舞の菩薩で陰陽の神だったと明かして舞を舞い、草木成就の身となって明け方の空に消えていきます。業平によって和歌に詠まれた杜若の精が、「伊勢物語」の世界を物語ります。

和泉流 狂言

蝸牛・かぎゅう・

出羽国羽黒山の山伏が長旅に疲れ、数の中で寝入っていたところに現れた、主人から寿命長遠の薬になるといわれる蝸牛を捕まえて来た太郎冠者。蝸牛を見たことがない太郎冠者は、蝸牛は数に棲み、頭が黒く腰に貝をつけ時々角を出すもので、年を経たものは人ほどの大きさになるといふ主人の言葉から、山伏を蝸牛と勘違い。主人の元へ山伏を連れ帰ろうとする太郎冠者をからかうと、山伏は蝸牛の振りを続けます。音曲に浮かれ踊る楽しさと、勘違いが笑いを誘う狂言です。



九世観世鏡之丞

観世流シテ方楽師。八世観世鏡之丞・静雪(人間国宝)の長男。鏡之丞家の当主・鏡仙会の棟梁として、これからの能楽界を担う存在として期待されている。

野村萬斎

人間国宝・野村万作の長男。「狂言」でござる乃座・主宰。国内外で狂言公演に参加する一方、現代劇や映画、TVIDドラマの出演など幅広く活躍中。